

令和6年度教育委員会施策評価一覧表

幸田町教育委員会

対 象 事 業 名	事 業 の 概 要	令和5年度概算事業費	総合評価	教 育 委 員 会 内 部 評 価	外 部 評 価 委 員 会 評 価
特別支援教育事業	特別支援を必要とする児童生徒に対して、将来、就労自立及び社会参加できるように、障害の程度に応じた適切な教育的支援を関係機関が連携して行う。 また、日本語教育の必要な児童生徒に対して、学校生活に必要な日本語を習得し、生き生きと学ぶことができるようにするために、取り出し指導などきめ細やかな個別指導や集団指導を行う。	84,159千円	A	特別な支援を必要とする児童生徒に寄り添い、個々の自立を目指していく上で、きめ細やかな指導をしている。不登校傾向や問題行動に対しては、様々な所管課で連携を図り、支援方法について役割分担し、切れ目なく長い目で支えていく体制ができています。	ここ数年で特別支援教育のニーズが高まっており、体制の整備が求められる中で、指導員や補助員を増員して対応している施策については評価できる。 包摂的な教育をしていく際に、多くの教員が特別支援教育に関する理解をより進めることが重要であるが、特別支援アドバイザーを配置し研修も開催している。 また、外国籍で日本語の理解が困難であるのは児童生徒だけではなく、保護者が不便で教育の状況に影響を及ぼすこともあるので、引き続き保護者も含めた支援をしていただきたい。適切な教育支援を行う体制が、今後もさらに充実することを期待する。
文化財保護事業	博物館は、町民及び施設に関わる人々と、歴史を学びながら、現在をひも解き「ともに探求」し未来を発見することができる大事な施設である。 しかしながら、現在の郷土資料館は築47年経ち、施設も老朽化しており博物館の理念を遂行するための十分な設備も整っていない。そこで、現郷土資料館に替わる新たな文化財の保存・活用、郷土の歴史を学ぶ施設としての新博物館建設に向けた計画作りを進めていく。	14,039千円	A	有識者会議に諮りながら、着実に計画を作成し、幸田町に相応しい博物館構想・計画が策定できている。	三河は歴史と文化が深い地区であるので、地域の資料と歴史を守って将来に残していくことに価値があり、ふるさと学習や郷土教育の充実の一助に繋がる。 また、博物館単独の建設ではなく、図書館と隣接させることで、スムーズな運営と付加価値を高めようとする構想は好ましい。 博物館建設には幅広い世代の声を取り入れながら進めていく必要があり、特に若い世代に知って学んでもらい、その視点を取り入れていくことが大切であると思われるので、郷土教育を続けながら、長期検討が必要な事業として取り組んでいただきたい。
町民会館管理 運営事業	文化振興により福祉の増進を図るため、公の施設として安心安全に利用することができるよう適切な施設管理を実施する。多くの人に利用していただけるよう質の高いサービスの提供、求められる多様なニーズへの柔軟な対応に努める。	420,868千円	A	問題点を検証しながら、安心安全な施設運営を継続している。また、多様なニーズに対応した各種事業にも取り組み、利用者の確保に努めており、利用者にも喜ばれている。	前回の評価で駐車場の不足が指摘されていたが、今回は駐車場が増えている。これは利用者にとって大きなメリットであり評価できる。 町内の利用者からチケットに関して色々な意見があるようだが、町内外を区別することで利用者の減少や不平不満がでないよう、仕組みを検討してもらいたい。 さくらホールの音響設備は利用者から好評であるので、町民の文化発展に寄与するためにも、指定管理者と連携し、施設の運営にしっかり取り組んでいただきたい。

※評価基準（3段階） A：事業成果良好につき、継続が好ましい。 B：事業成果あるも、一部改善検討の上、継続 C：事業成果に課題あり、見直し又は廃止が適当